特277
958
特277-958
*76W10899 *

愛兒の將來と教育の改造

新渡戸博士講演

始

愛兒の將來と教育の改造

日本の現狀と二つの行詰り――今日の行詰りの初めは何時か――行詰り打開と教育の改造――獨創的教育と命令服從の教育――先生の教へと家庭の教へ――質問を許さない教育――佛國人と英國人との比較――ウエルス氏の未來の社會指導者――聖德太子の夢殿の修養――日本の子供の育て方――秩父宮殿下――のんびりした米國の教育――政府の補助にすがる日本人――教育の目的を子供に自覺さす――一生の目的を何處に置くか――溫味のない教育――今日の危險思想の根底――學校以外の教育が必要。

貴族院議員
法・農學博士　新渡戸稻造

昭和五年三月十九日夜、日比谷公園外飛行會館講堂に於て本協會は東京市教育局並に東京日々新聞社と共同主催を以て兒童教育講演會を開催した。本會理事田川大吉郎氏司會の下に先づ會頭前田子爵の開會の挨拶があつて日本女子大學校長麻生正藏氏の「次の時代と子女の教養」と題する講演があり次いで新渡戸博士は「我國の現狀と愛兒の將來」なる題下に約一時間半にわたる講演があつた。本篇は其の速記であるが標題は編者が變更したものである。（文責在記者）

暫らく麻生さんのお話を伺はないで居つたが、下手の長談議とか云ふ御自分の御吹聽であつたけれども、中々其の道に於

76W10899

て御經驗のあるものと見えて、折角面白い處へ來て「これでおしまひ」とは、なか〳〵話家はかしか である。所謂餘程の達人でなければ出來ない御手際を見せて頂き、殘り惜しくお話を承はりました。先生のお話に就ては皆樣も定めし初めより終りまで御同感であつたらうと思ひまするし、私の如きは永らく教育界を離れて居つて、近頃の日本の教育に就ては素人であるが爲めでもありませうが、耳新しい事を澤山伺つて、啻に共鳴するのみならず大に啓發する處があるやうに存じました。私の申す事は先生のお話になつた事に聊か補足するに過ぎぬのであります。大體先生の述べられた題と同じやうなもので、言葉こそ少々違ひますけれども御覽の通りのやうな譯で……と云つても此處には演題が掲げてございませぬが……我國の現狀と愛兒の將來と云ふのであります。

日本の現狀と二つの行詰り

日本の現狀を今日此處でお話する事は限りのない問題でありまするから、主として愛兒の將來に就てお話をする事に致します。其の出發點として日本の現狀を一言申しますると、是は多くを語る必要はない。唯二點だけを申述べて置けばよい。然かもそれは說明を要しないと思ふのである。一つは經濟上行き詰つて居ると云ふ事、是が日本の現狀の一つで、而して是は經濟の方面から云つた事、經濟的方面と云ふ事

は我々の生活に最も近い關係にあるから、社會問題とか何とか云ふ問題も多くは是から起るのである。即ち經濟上行詰つたと云ふ事が日本の現狀の一つである。第二に申したい事は思想上甚だ不健全である。日本國民の抱くべからざる所の、日本の社會、日本の國家を根底より危くする思想が或る部分に行はれて、それが幾分か擴がりつゝある傾向にあるやうに見える。是が第二の現狀である。外の事を一々述べたならば數限りがないと思ひます。之を女子の教育はどうだとか、道德はどうだとか、銀行の利子がどうだとか云つたのでは限りがないけれども、愛兒の教育に就てお話するに當つて、西洋人が云ふ頭の後ろに蓄へて置いて將來の事に就て參考になる事は、此の二箇條であらうと思ふ。少なくとも私は此の二箇條を前提に置いてお話を申上げたいと思ふのであります。

今日の行詰りの始めは何時か

是に就て私の一番初めに頭に浮ぶ事は、現狀は斯くの如く行詰つて居り、且つ不健全な事もあるが、然らば之を打破する教育の方法があらうか。それとも我々自身が今日の此の面白からざる現狀から逃れる事が出來るかと云ふと……我々と云つても見渡す處私と同年輩の方も少しはお出でになるやうに見えるけれども、多くは大分お若い方のやうに見受ける、我々と云ふたならば不平の方が多分多からうと思ひます

ので、念の爲に申して置きますが、私は六十九だから現狀を語る資格はないものである。寧ろ過去を語る資格を有するものである。然るに現狀を語るには過去を知らなければ語る事が出來ぬのです。過去なくしては今日の現狀とか現在とか云ふものはありやうがないのである。哲學者の云ふやうな現在と云ふものはあるものではない。現在だ未來だと云つても過去を根底として居る。お互ひ誰でもさうだ、未來を知るには過去を知るより外はないと思ふ。卽ち故きを溫ねて新しきを知ると云ふのがそれである、たゞ古きを知り新しきを知るだけでは學者の慰みであつて、新しきを知ると云ふ事は卽ち未來の眞理を知ると云ふ事と解釋すべきある。現在と云ふものは謂はゞ過去を受けての現在だ。今日の行詰つたと云ふのは今晩から初まつた事ではない。政治家ならば今の內閣が出來た時分から起つたとか何とか云ふか知らぬが、今日云ふ行詰りは昨年や一昨年から始まつた事ぢやない。段々今日の經濟の行詰りを溯つて考へたならば恐らく明治の初めからである。明治の維新當時から今日の行詰りの種子が植えられてあつたのだとも論じられるのであるから、將來を圖るには過去と現在を知らねばならぬのである。

扨て其の過去なり現在の此の苦しい境遇から逃れやうとする其の道は何處にあらうかと

行詰り打開と教育の改造

尋ねたならば、矢張り教育と云ふより外あるまい。彼の有名な佛蘭西革命の折に三傑と云はれた……大して英傑であつたかどうかは問題であつたけれども、兎に角革命の主腦者であつたダントン、ロベスピエール、マラーと云ふ三人が會合して、斯くの如く行詰つて二進も三進も行かなくなつたが、どうしたらよからうと云つた時に、ロベスピエールと云ふ人が教育より外はないと云つた。そこで二人は、教育は十年も先の事である、明日の事だ、然かも巴里の市民は竹槍を持つたりピストルを持つたりして居る、之をどうして教育をするのだと云つたとの事であるが、私が現代の行詰り打開は教育にありと云ふならば、ロベスピエールの說を繰返して居るやうで物笑ひの種子になるでありましやう。けれども現在の苦痛を逃れると云ふ事は、明日明後日と云ふ事ではない、來年再來年と云ふ事でもない、もう少し先に行つてからである。今日此處にお集りの方は教育に御熱心の方々であらうと思ふ。そこで先を見てどう云ふやうにしたならば、我々子孫、子孫と云つても次の時代の或は十年二十年先の日本人が、我々程苦しまないで行けるであらうかと云ふ事を考へたいのである。

それに就いて私は第一に考究すべき事は、どうしたならば我々の教育をしてもつと獨立

獨創的教育と命令服從の教育

的獨創的に奬勵する事が出來るかと云ふ事であらうと思ふ。言葉を換へて云ふと、今迄の教育は如何にも眞似事が多い。眞似に非ず命令服從である。斯う思へ、斯う考へよ、高壓的に斯うだと云ふ。さう云ふやうに習つて來たのである。我々が學校に行つて見てさうだ。少しも生徒に質問なんかさせない。だから頭の自由の働きがない。何でも丸呑だ。先生が云ふ通り何でも彼でもはい〳〵と云つて先生の說などに反對しやうものなら直ぐ落第と來る。又反對するまでもなく、先生本當ですかと云ふと頭から叱られる。生徒は全く判らないで唯々諾々として居る。質問と云ふ餘地がちつともない、考へさせると云ふ餘地がない。幼稚園に這入つてから大學を卒業する迄ずつとさうである。私も中學校を道樂半分に預かつて居つた事がある。高等學校も預かつて居つた事もある。大學にも北海道、京都、東京の帝大等で教授をやつた事がある。幾らか學生を遇する經驗を持つて居る。麻生さん見たいに四十年はやつて居らぬが……今私は四つの學校を持つて居る、と云ふのは道樂半分に教へて居る。今日も實は朝からお晝過ぎ迄行つて居つた。幾らか傍觀的ではあるけれども男生徒なり女生徒なり若い者に接して、彼等の頭の働きを幾らか心得て居る積りだが、彼等の頭と云ふものはたゞ服從的で、先生の云ふ通りはい〳〵

先生の敎へと家庭の敎

はい〳〵。疑ひがあつても、それは先生の前では云はないで蔭で云つて居る。

今に記憶して居る事であるが、今日はまさかそんな事はあるまいと思ふけれども、外の事柄に就いて同じであらうと思ひますが、……それは三十年ばかり前の話であります。私が北海道に居つた時に、或る雪の降つた日に細い道を通つて行くと、女の子供が二人歩いて行く。一體私は惡い癖で子供を見ると鐵が磁石に引き付けられるやうに傍に行く。道を歩いて居ても可愛い子が居ると傍に行く。そこで其の子供を見たので後ろに隨いて行つた。暫らく子供を見ながら歩いて居たが、雪の降つた寒い日である。頭巾を被つて合羽を着て居つたから顏こそ分らないが七つか八つの子供であつた。其の一人の子供が云ふには、私の學校の先生は馬鹿だ、とえらい事を云ふのである。處が一人の子供が、馬鹿だと云ふのはどう云ふ惡い事を云つたのか、と云ふと、前の子が、地球が丸いと云つたよ。私の處の先生も地球が丸いと云つたよ。私は先生が仰しやるから本當だと思つたら、家に歸つてお婆さんに云つたら大變叱られてしまつた。是だけの程度ではなくつても、程度は違つても此の種類の教育が行はれて居ると思ひます、先生の教へられる事と家庭とは違ふ。

質問を許さない教育

教育勅語で夫婦相和しと云ふ事を習つて居る。家へ歸つてどれだけ和して居るか。箒で叩き合ひをして居るのを見て、ははア是が和する事かと思ふのである。忽ち子供に疑問が起るけれども、先生相和すると云ふ事は引つ叩く事でありますかと聞く譯には行かない。はつきりしないでわさ〳〵して居る。さう云ふから多分さうだらう。分らぬ事はたゞ諳記だけして置け。理窟なしにさう云ふ教育を受けて居る。それがずつと今云つた通り小學や中學ばかりではない。ずつと行つて大學でも其の通りであらう。現に私の知つて居る大學の先生が生徒に質問を許した。處が自分の答へる事の出來ない質問をした。そこでそんな事が分らぬかと云つて叱り付けたが、其の癖自分でも分らなかつたのだ。さう云ふやうにして如何にして人の頭を殺すかと云ふやうな事を考へて居る。たゞ受身的にバッシヴに教育を受けるのである。

それだけが今日の教育である。それで茲で申した第一點はどうしたならば獨創的な教育を受けられるか。自分で斯う思ふがと云ふやうな臨機應變、ものに打突かつて之を解決する時に、自分の考でやれるやうな教育に變へる事が出來るか。是に依つて愛兒の將來が決まると思ふのである。行詰つた世の中です。其の行詰つた世の中に、行詰る事を教へ居て

るのでは何時までも行詰つて居るのではないか。行詰つたならば是ではいかぬ、新しい方面を開拓すると云ふ獨創的、創業的の考へを起すやうにせねばならぬ。

佛國人と英國人の比較

佛蘭西で有名な學者で、たゞ學者と云ふばかりでなく、社會の師範とでも云つてよい位の高潔な人格者でラビシュと云ふ人が居つた。色々な著述もあり、學者としては歴史を專門として居るのでありますけれども、彼が佛蘭西に貢献した事は學者と云ふよりは寧ろ社會の師範として名を殘した事である。或る時、私は此の人の名を聞いて居つたから訪問した事がある。二度ばかり教へを受けに行つた事がある。さうすると何かの話で……話の題は忘れましたが、いきなり先生が佛蘭西人と英吉利人の比較を始めて、佛蘭西人は怜悧である、利巧だ、英吉利人は愚鈍であると云ふ事を述べた。此の人にしても尙ほ公平な判斷が出來ぬものかなア、頭から出し抜けに英吉利人を惡く云ふ事は正當な議論とは思はれない、英吉利には善い事もあり惡い事もある、それにも拘らず矢つ張り此の人にしても、尙ほさう云ふ事があるものかなアと思つて聞いて居つた。さうすると、先生の曰く、謂はゞ斯んなものだ、英吉利人と云ふものは一人で進んで行くと行詰る。大きな岩のやうな處へ行つて打突かる、眞つ暗闇(くらやみ)でまだ何人も手を付けないやうな新

しい事業をするのに、暗闇に進んで行つて、岩石に頭を打付けて倒れて死んでしまう、さうすると二番目の英吉利人が同じやうな事をやる、同じやうな事をやつて又打付ける、三人か五人同じやうな事をやり、漸く六人目位で初めて氣が付いて、是は變だ、成る程死骸がある、どうしたのだらう、何で死んだのだらう、提灯でも持つて來て調べて、頭に傷が付いて居るから何かに打付けたのだらう、それから其の邊を探して成る程こゝに打付けたのだ、之を一つ開拓しやうと云ふので機械を持つて來てこつ〳〵やる。それをやつて居ると六番目が倒れ、七番目がやつて來て倒れる。さうすると十人も二十人もやつて居る内に段々と隧道（トンネル）が出來て、三十人五十人とやつて居る内には行詰りを逃れて大きな活路を得るのである、是が英吉利人である、佛蘭西人はどうか、佛蘭西人はそんな馬鹿な事はしない、成る程一番初めに行く者は岩に打突つて斃れるに違ひない、二番目は何か大層血腥いぞ、危ないから逃げろ、それで何時迄經つても隧道は開かない、銘々には幸福であらうけれども、十年でも二十年でも活路は出來ないであらう、是が英吉利人の愚鈍なる處であり、偉大なる處であると云つたが、成る程此の人は公平な人だと感心して聞いた事がある。大分日本も佛蘭西人に似て居る。行詰ると云ふと、直ぐに政府から金を貰ふ事を考へ、自分で

活路を開かうと云ふ事をしない。利巧だ。是は即ち明治の初めから今日まで皆是でやつて來た。何とか彼とか云つて他の人からお釣錢を貰つたり、政府から補助でも貰つて仕事をするやうな今日です。

未來の社會の指導者

愛兒の教育をするには、もつと獨創的な教育をせねばならぬ。獨創的な教育と云ふのは何であるかと云ふと、行詰つた時に自分で是は斯うしなければならぬ。他の人の力を借らないでやる。其の教育が出來て居ないと云ふ事は先刻から申した通り、たゞバッシヴに受身になつて聞くだけで、自分の頭を働かせる力がないのである。彼のウェルスと云ふ人の書いた「近世理想鄕」モダーン・ユートピヤと云ふ書物のうちに……即ち近世理想鄕と云ふのは近い將來に於て世界はどう進歩するかと云ふ事を想像して書いたものである。其の中に未來の社會を構成する人物の教育法が擧つて居る。皆樣も御承知であらうと思ふ。未來の社會の指導者と云ふものはどう云ふものかと云ふと、彼は此の指導者を名付けて侍と云つて居る。私もウェルス氏には會つたことがあるが、彼は侍とか武士道とか云ふ言葉を使ふ、實に日本の事が精しい、先生は日本の侍と云ふものはどう云ふものだと云ふ事を想像してゞありませうが、未來の社會の指導者を名付けて侍とし

て居る。扨て其の侍なるものゝ教育法如何と云ふと、獨創、自分獨りでに考へ込む爲めに先づ座禪でも組んで禪學でも授ける樣な教育法である。例へば一年に何週間でしたか、六週間だと私は心得て居りますが、或は二箇月であつたか、侍になるものは、社會的の階級は勿論構はぬ、大工の子供であらうが、左官の子供であらうが、大臣の子供であらうが構はぬ。志願者は一定の教育を受けよ、道を修めよ、其の修めかたの一つとして、一年に六週間か何週間は自分の食ふだけの麵包を袋に入れて、そして自分の持てるだけの着替を布呂敷包み見たいなものに入れて、武器と云ふものは一つも持たずしてたゞ棒一本を持つて山の奥に行く。そして此の間即ち六週間と思ひましたが決してものを云つてはならぬ。自分で詩吟する、歌を誦む事は差支へないが　途中で人に會つても決してものを云つてはならぬ、默つて山の中に這入つて定期間即ち六週間と云ふものはたゞ自然と交はつて、或は月を眺め、風に當り、草木を喜び、花と語り、人間とは絶交する、そして己れの心と交はるにあらざれば天然自然と交はつて六週間を暮らす、本を持つて來てはならぬ、考へるのはよい。斯くの如きは即ち獨創を奬勵する道である。然し質問があつても人に尋ねる事はならない。自分で考へろ。斯くの如き教育なのであります。

聖德太子の夢殿の修養

唯一例に過ぎませぬけれども、此の間も中里さんの書かれた「夢殿」と云ふ本を見て、諸君も御覽になつたと思ひますが、聖德太子が經文を御讀みになる場合、解し難い文句があると夢殿の中にお這入りになり、二日も三日も五日も決して人に會ふ事なく、たゞ御一人で夢殿に其の日を暮らされたと云ふ事が書いてあるが、ウェルス氏のも同じやうな教育である。山の中で猛獸が居らうが何が居らうが、屋根のないところに、而も夜具布團を持つて行くのではない。自分一人で持つて行けるもの、自分の身を處理するに自分の手の力の及ぶだけのものを持つて行くのであつて、是から一つ侍の修業をするから家來共天幕を持つて來い、布團を持つて來い云ふのではない。自分一人、たつた一人でやる。斯う云ふ事を歲々年々やる。玆で初めてオリヂナリティーと云ふものが出來る。獨創的な考へが發生して、蛇が出たらどうするか、咽喉が乾いたらどうするか。さう云ふやうにたつた一人と云ふ事はつまり己れの潛在的能力を發揮すると云ふのでありますが、先づ斯う云ふ教育でなければ行詰つた世の中に新しい活路を開く事は到底不可能であらうと思ふ。私は即ち其の意味に於て、先から申しました現代の行詰つた狀態から逃れやうとするには、獨立獨創の自分の力で自分の進む道を開墾する教育が必要だと思ふ。

それには餘程我々父兄としても亦教師としても考へねばならぬ事であると思ふ。

日本人の子供の育て方

よく外國人が云ふ事だ、日本の子供、殊に男の子供は餘り大事に育て過ぎると云ふ事を云つて居る。諸君の中には必ず有名なシルレルの書いた劇であるウイリアム・テルの芝居を御覽になつた方があると思ひますが、あの芝居を見て私は成る程と思つた場面が一つある。それは外でもない。テルの小さな子供がお父樣の眞似をして弓を射る事を戯れに習つて居た。偶々弓が折れた。さうすると、お父樣の處へ來て、弓が折れた、直して下さいと云つて來る處がある。テルが答へて云ふのに、弓が折れたら自分でお直し。だつて直すには木がない。木のある處へ行つて探してお出でなさい。何處にあります。ある處を探しておいで。山には澤山木が生えて居る。斯う云ふ處がよい處だ。日本では中流以上の女中でもある家であると女中にやらしたり、或はお母樣にやらしたり、殆んど飯食ふ時に自分で箸を持つ位の話で、寢衣を着るでさへも人に手傳つて貰ふと云ふやうな……斯んな事を云つたならば日本の風俗に反對の意見で非常に怪しからぬ、醇風良俗を變ふるものと非難して叱られるかも知れませぬが、私は此の年になるまで寢衣でも何でも全く自分でやつて居る。靴だけは自分で磨かないけれども……處が日本の中流では着

物を着換へるにも兩親でも妻君でも何でも呼んでやらせる。自分で着物が着れないのか知らぬ。シャツ一枚着ると云ふのに三人位掛かつて居る。どれ程エフィシェンシーを缺いて居るか。甚だしきは一人で便所にも行けなくなる。斯くの如きは自分の召使ひなり自分の女房、或は自分の娘なりの人格を認めないと云ふ事になるのであります。自分で出來る事を自分でしないと云ふ事はない。私は何も英吉利にかぶれて居るのではないけれども、英吉利の紳士と云ふものは自分の事は自分ですると云ふ處に紳士としての値打ちがあるとして居る。

秩父宮殿下能を垂れたまふ

畏れ多い事でありますが、一昨年秩父宮が福岡で或る家に御泊りになつた時に、殿下が御立ちの時に靴をお穿かせ申さうとした處が、要らぬといつて自分で御穿きになつた。實に畏れ多い事である。いゝ例を御示し下されたものである。福岡では其の話を聞いて、急に福岡の金持連中が靴だけは自分で穿くやうになつたと云ふ事である。自分の事は自分でやるだけの工夫をしなければいかぬ。餘り子供が可愛いと云つて居てはいかぬ。何も彼もお前自分の事は自分でおやり、御飯を食べる時に味噌汁を零したならばお前が零したのだからお前お拭き、それから後始末のお茶碗を臺處に持つて行

つてお洗ひ……そこ迄は行かぬでもよいが、自分で過失がある時には其の過失を直させる。日本では子供を餘り大事にする。殊に男の子供を大事にする。だから責任が非常に薄くなつて、自分が何をしても後は誰か尻を拭つて呉れるだらうと云ふやうな事になる。故に私は愛兒の將來に就て、更に御注意したいのは、もつと責任の觀念を子供に授けたい、自分の事は自分でするのだと云ふ事であります。

暢んびりした米國の教育

餘程以前の事になりましたが、青山胤通と云ふ有名な醫學博士が居られました。輕井澤に於て始終夏を過ごされた人でありますが、私も夏は輕井澤によく行くので度々あちらでお目に掛つた。或る時私の家に遊びに來た時云はれるのに、新渡戸君、俺は獨逸の事は大分心得て居るが、亞米利加の事は君がよく知つて居るだらうが、實は俺が此處に來る時……丁度お晝時分であつたが……亞米利加の子供がもう何時だと聞いた。聞きやうがあるだらうと思ふのに、もう何時だ、普通ならば恐る〳〵來て何處の小父さんとか、又田舍に居ると先生と思ふだらう、さうしてお辭儀をして聞くであらう、然るに亞米利加の子供はおい〳〵時計は何時だと云つたので實に僕は癪に障つた、無作法だと思つて、熟く〳〵考へて來たのだが、然しあれで初めて人間は伸びるのだと思つた、

餘りにぺこ〳〵頭を下げたり、お世辭を云つたりするのでなく、オイ時計は何時だと云ふ無作法な處に實に暢んびりした處がある、あのやうにして伸びるのだと思ふがお前はどう思ふか。そこで我輩が、北海道に楡の樹と云ふのがある、松などにも捻くれた面白い樹もあるけれども、あの楡と云ふ樹は堂々とした木である。餘り役に立たない材木にする位のものであるが、樹としては實に堂々たるものである、如何にも伸び〳〵として居るけれども、あの樹は小さい時に見ると實に癪に障る樹である、恰好が惡い。其の話を青山君にして、あゝ云ふものではないか、如何にも枝つ振りが面白くない、出なくつてもよい方に枝が出て調和がないやうであるが、それは子供の時だけで、成長した後と云ふものは堂々たるものである、人間もあゝ云ふやうに伸ばしたいものだ。いやさう云へばさうだ、實は俺も今それを考へて來たのだと云つたが、まア責任觀念もさうだ。外國人は惜しいかな子供は成る程日本人から見れば無作法な處があるかも知れぬが、自分のやるべき事は自分でやると云ふ樣な事を話し合つた事がある。

政府の補助にすがる日本人

皆さんも斯んな話を御聽きになつたことゝ思ふが、彼の有名な亞米利加の大統領のリンコルンが、大統領になつて華盛頓の官邸に居つた時に、英吉

利の有名なる政治家を客として招いて泊めた。御承知でもありませうが英吉利の風俗としてお客様が泊まると、ホテルでも同じですが、自分の靴をドアーの外に出して置く。さうするとそれを召使が磨く。亞米利加も今はさう云ふ風になつたが、二十年位前迄は……リンコルンの時代ですから六十年前ですが……自分で自分の靴を磨いた、立派な紳士でもさうである。私が外國へ留學した時分には立派な大學の校長が自分の靴を磨いて居た。私も暫らく客になつてペンシルヴァニアの或る會社の社長の家に泊つたことがある。何億と云ふ身上を持つて居る人でありますが、其の人も靴を自分で磨いて居た。扨てさう云ふ習慣のある國であつたが、彼のリンコルンの處に泊つた英吉利の政治家は、例の通り自分の靴を部屋の外へ出して置いた、處が誰も磨いて呉れなかつた。翌日になつて汚ない靴の儘で朝飯食べに下に降りて來た。不平顏をしてリンコルンに云ふのに、「一體この國では靴磨きはないのか」。「靴を磨くのを商賣にして居るのは居る」「一體誰が靴を磨くのか、英吉利では自分の靴を磨くものではない」「それでは一體誰の靴を磨くのですか、自分の靴を磨かないやうなものは屹度誰かの靴を磨いて居るだらう、」屹度誰かの御機嫌でも取つて居るだらう。日本で云へばお髭の塵でも拂つて居るのだ。自分の靴でも磨かなければ誰かの靴を磨いて

居るだらうと云ふやうな事を云ひましたが、それは些細な事であるが、兎も角自分の事は自分でやる。之をもつと敎へ込まなければ、一旦行詰つたとなると、先刻もお話したやうに、實業界で行詰つたら政府の補助を受ける。又さうでなければ行詰れば外に道がないから華嚴瀧にでも飛び込む、或は淺間山へでも飛込む。人生と云ふものは人に助けられて行かなければ出來ぬものだ、獨立獨行は出來ぬものだと云ふので、直ぐに行詰つてしまへば、自殺でもすると云ふ事は、是は責任觀念が養はれて居らないからである。この點に就て私は非常に西洋と日本との敎育に違ひがあると思ふ。今後必ず日本の敎育が西洋風になるかどうかは知らないけれども、縱し西洋風にならない迄も、今の處では行詰つた今日の狀態より逃れんとするには、自分の事は自分でやると云ふ處に考へを持つて來なければならぬものだと思ふ。

敎育の目的と子供の自覺

それから尙ほ申述べたい事は……時も過ぎますから略して申しますと……もう二つ三つ述べたいのでありますが、先づ將來の兒童の敎育に就て考へるのに、人生の目的と云ふものを子供に自覺させる點に就て、我々はまだ〳〵足らぬ處が多いと思ひます。斯く云ふ私が體驗して居る。私の事を申すとお恥かしい次第でありますが

私が六歳の時分から始終母より習つて居る事は、自分の家を恥かしめるなと云ふ事である。私は八歳の時に母の膝許を離れて東京に來たのだ。十年を經て偶々國へ歸つた處が其の三日前に母は死んで居つた。其の頃には通信の機關も惡かつた。母の病氣の事も知らずに參つたのである。そんな事を今お話する必要はないやうなものでありますけれども、さう云ふ關係上私は先づ八歳の時に母に分れた。それから十年間屢々手紙を貰つた。其の手紙は即ち私が八歳から十八歳になる迄の手紙、子供に母が書いて送つた手紙だ。扨て其の子供に書いた手紙を六十九になる爺が今尙ほ母の命日には必ず一度之を讀む。又自分が幼な心になつたやうな氣分がするが、それと同時に母の教訓は今尙ほ新しく私の耳に聽え響くのである。この手紙の前では私は老人ではない、成人でもない、若々しい少年である。扨て其の少年に對して家名を恥かしめるな、お父樣の名に傷の付くやうな事をしてはならないよ、お前が勉强を怠つたりするとお父樣の子ぢやない、お前が馬鹿な事をすれば母に似て馬鹿だと云ふ事になる。よい事をすればお父樣に似て立派なものだと思ふ。お父樣の名と家の名を汚すな。是が一貫して居る。それで私の教育の謂はゞ倫理的教育と云ふ事は殆どそれで來た。故に何かに付けても斯んな事をすれば家名を傷つけると云ふ事を子供ながら

も恐れたのであります。言葉を換へて云へば私の道德思想と云ふものは家の爲め、而も其の家の爲めと云ふは金を貯めて家を興す事ではない、家名と云ふ事である、一家の名譽と云ふ事である。顧みれば狹い教育を受けた。國家或は社會或は人類の爲めに一身を捧げよと云ふやうな高尙な宏大な教へではなかつたのである。この點に就ては恥かしい事に田舍侍の家に生れたが爲め斯う云ふ狹い教育を受けたのである。けれどもだ、顧みて是は子供に相應はしい教へであつたのだ、八歳や十歳の子供に國家の爲めにと云つて見た處で仕方がない、それが而も明治五六年の頃で國家が確立して居ない、御維新過ぎてまだ十年も經たない。幕府が再び興ると云ふやうな評判もあつた、まだ日本の天子樣が何處に御在すか知らないのである。其の時天下國家を話しても大人にも分らない事で、況して我々には尙更分らない。洵に幼稚な教へであつたけれども洵に幼年には相應はしい話である。そこで自分の恥を曝して申上げるの外はないが、かう云ふ狹い教へであつた爲めに、兎に角學問するのは自分の身の爲めぢやないぞ。かう云ふ教へと私はしんみりと感じた。俺は偉くなる、偉くなりたい。何故偉くなりたいのか、自分の名を輝かさうと云ふのではない、親の名を高くしやうとするのである。今日の少年はそれから見ると實に幸福なものだ。もつと偉

大なる理想を抱く事が出來る。我々のやうに狹い小さな教へで養成されずに、世界の爲めとか人類の爲めとか云ふ大きな理想を抱く事が出來るのである。

一生の目的を何處に置く

然らば何が故に我々はさう云ふ理想をもつと子供に入れないか。私は己れを捨てなければ教育しても何もならないと云ふやうな氣がする。何だか說教見たいな事を申すやうでお聽き辛い方もあるかも知れませぬけれども、私は自分の目的と云ふものは自分を偉くするのではない。自分を思つて居る時には修養も出來なければ本當の活動も出來ないと思ふ。人生と云ふものは自分の爲めに生きて居るのではない。父の爲めに生きて居る人もあらう、或は社會の爲めに生きて居る人もあらう。兎に角自分の爲めでないだけは確かだ。遺憾ながら我々の今日の教へにどれ程この事が含んで居るか。成る程、それは聽く事には立派な事が澤山あるが、耳に教はる事ばかりでなく、眼に見せ付けられる事で、この教へがどれ程あるか。また名譽も富も問題外にして、己れに來る名譽を態々避ける必要はない。人間が社會に生れて居る以上、富が來たからと云つて、逃げて山に隱れる必要もない。誰人の作られた歌か知らぬけれども、頗る私の共鳴する和歌がある。「山深く何か庵を結ぶべき心の內に身は隱れけり」實に盡くした歌だと思ふ。何も山深

く隱れて庵を結んで、さうして俺は俗界を退いた、世の中の塵を避けたと云つて居るのは卑怯未練なやり方だ。俺は戰さが出來ない爲めに逃げて行くと云ふやうなものだ。塵の世の中であらうが、芥の世であらうが此の社會に生きて居つて、其の代り自分が踏まれる事もあらうし、惡く云はれる事もあらうし、暴力團に遭ふ事もあらうし、新聞雜誌にも惡く書かれる事があらう。然し是が何だ。この中に立つて兎に角人生は俺の爲めぢやない。此の觀念を養ふ事でなければ世の中の少し臆病なものは皆逃げてしまはなければならない。此の行詰つた困難をうんと忍ぶと云ふ忍苦の力がなければ打開は出來るものではない。斯う云ふ事は今日の教育の何處で教へて居るかと云ふ事だ。

四五年前の事だが、亞米利加のハーバート大學の卒業生七百人に君は一生の目的を何處に置くかと云ふ質問を出した。さうしたら七十プロセント迄の學生の答へたものは、社會に奉仕すると云ふ事であつた。此の試驗に當つた或る教授が曰くあゝまだ亞米利加も滅びないと云ふ事を云つて私に聞かした事がある。どれ程此の答へを卒業生が本氣で云つたのか知らぬけれども、兎に角百人の內七十プロセントはあの黃金崇拜の國と云はれて居る亞米利加に於てすら富を目的とした者はないことになる、又先刻から私が恥を曝して申上げ

たやうに、自分の一家の爲めにと云ふ事も云はない、社會の奉仕と云ふ事を以て自分の目的としたものが百人に七十人もあると云ふ。斯くの如き青年がある以上は先づ國は暫らく滅びないと云ふたのは甚だ理由のある事だと思ふ。我々が同じやうな題を日本の青年に出したならば何んな答へをするだらう。やつて見たいと思ふ。然しやるだけの勇氣は私は實はない。其の答へを見たならば身慄ひをするだらうと私は思ふ。

溫か味のない日本の教育

尙ほ私の最後に申上げたい事は、今も申した通り、右のやうな質問を出して、恐らく其の答へは身慄ひするやうな答になるであらうと云ふやうな、悲觀的な事を申していけないやうだが、けれども私がさう云ふのは外でもない。さう云ふ心配をする理由がない譯でない。何故ならば日本の教育には溫か味がちつともない、人間としての潤ひがない。先刻もお話があつたが、理窟は一通り云ふ。理窟も理窟小理窟の多い事、どつちにもよいやうな理窟を捻くつて居る。さればこそ危險思想も起るのは當り前だ。どうです、マルクスの論は、議論として理窟としては實に巧みなものだ。理窟一偏に走るものならば皆マルクス主義になりはしないかと思ふ。飴細工のやうなものだ。斯う云ふものだから斯う云ふ事がある以上は斯うなるだらう、さうすると斯うなるだらう。斯う

なると斯うなるだらう。何處までも飴細工を引つ張り伸ばして行く。だから實際を離れて細い小枝の先にぶら下つて居ると云ふやうな事になる。理窟一偏でやつて居るのである。今からもう一年になりますが、後藤新平伯の亡くなられた時に私は毎晩お通夜の爲めに伯の邸に行つて居た。其の留守に或る青年が來て手紙を一本置いて行つた。宅に歸つて其の手紙を見ると而も達筆だ。曰く私は甚だ孤獨な生活をして居る者で、日中は外に出られない身分で夜遲く參りました。どうぞ此の手紙を讀んで下さい。私の母は藝者であつた。私の父は誰人か分らない。私が生れ落ちてから、あれは父知らずの子だと云ふので輕蔑の眼を受けた。然るに母だけは非常に私を愛して呉れた。其の時は母は藝者も止めて、細い竈を立てゝ私の養育にのみ熱心にして呉れた。小學校だけは兎に角卒へました。然し小學校に居る間にも常に私の父親の知れぬと云ふ事で、凡ゆる方面より侮辱を受けました。遂に母が亡くなりました。其の後と云ふものは今日二十九になるまで唯の一度も人の親切と云ふものを受けた事がない。斯くの如き經驗を持つ私は如何にしても社會に反感を持たざるを得ないではありませぬか。故に私は監獄にも行きました。然し泥棒ではありませぬ。今は監獄を出て居るが、職を求めるのに誰も世話して呉れるものがない。私は斯樣な者ではあ

るが、何處か私を紹介して吳れないかと云ふのである。其の後三遍何時も夜來た。然し私は遂に會へなかつたが、彼の求めに應ずるだけの事はした。彼は喜んで去つた。其の後又彼は悲運に陷つたと云ふ事でありますが、それが要點ではない。二十九歳になるまで、母を失つてから唯の一度も人の親切と云ふものを受けた事がない。故に社會に對して反感を抱かざるを得ないではありませぬか。

今日の危險思想の根底

此の一言、私は是が今日の危險思想の根底になつて居ると思ふ。而も今云ふた此の人も危險思想に基くものであつたと云ふ事を後で知つたが、マルクス論者の中に於て、危險思想を抱くと云ふ者は、此等の危險思想者の中に純理に於て斯くなつた者は十人の中に一人あるかないか。今日の危險な思想と云ふものはマルクスではない。お互が人に對して親切をしない、人に溫か味を與へるやうな事をしないお互の責任だと思ふ。マルクスではない、お互に我々が其の責任があると思ふ。これが日本の教育の大々的缺點であつて、行詰ると直ぐ社會を怨んだり、或は自殺したりすると云ふ事になる。常時溫か味がないからである、家庭が紊れて居るからである。又金持なり高い位の人がいゝ例を示して居ないから、斯くの如き危險思想も世に蔓るものと思ふ。然らばお互今日

の現狀に照らしまして、我が愛兒の將來を考へる時には、先づお互の責任は如何である。

學校以外の教育が必要

啻に父兄としてのみならず、社會に住んで居る社會の一員として、忠良なる日本國の臣民として、どういふ責任があるか。學校の教育のみに任して置いては、日本の將來がよくなるものではないのであります。

日本の愛兒の將來を祝福するには、學校以外の教育としまして教師以外の力を借らなければならないと私は思ふのである。それは何かと云ふと我々である。如何となれば我々には電車の中でさへも教育して居るのである。一寸摺れ違つたところ、斯くの如き場合でも、顏を見合せてお互に教育をし合つて居るのではないか。赤の他人と云つても狹い六千萬の日本國ではないか。六千萬の狹い日本でお互に爭ふ必要はない。お互に不親切をしない、何も兄弟喧嘩をする必要はない。それよりも溫かい、明るい世の中を拵へて、周圍が愛兒の教育をして吳れて、もつと溫かい明るい氣分にする。是がお互の責任であつて、斯くの如き教育を授けてこそ、初めて將來の光明を認めるものではなからうかと思ふのであります。

尙ほ此の外に加へたい事も澤山ありますけれども、右申上げた四つの箇條が差迫つた我

々の義務であると思ひますから、今晩は是だけをお話致しまして、どうか諸君の御教へを乞ひたい次第であります。（大拍手）

331
71

昭和五年五月二十八日　印刷
昭和五年五月三十一日　發行

編纂發行兼印刷者　高橋都素武
東京市牛込區早稲田鶴巻町一一一

印刷所　甲子社印刷所
東京市麹町區新綱町壱番地
電話麹町三〇六・四三〇七番
振替東京一〇九八九番

東京市麹町區丸ノ内二丁目十番地
發行所　日本講演協會
電話丸ノ内一八八八番
振替東京六二八番

終